

指導案

さいたま市の中学校では、教育委員会の指導主事等が訪れ授業を参観・指導する「指導課訪問」が行われます。次の指導案はそのときのもので、「道徳」の形式をとっています。しかし、理科の授業として行っても全く問題はないと思いますので、ご検討ください。

第2学年1組 理科（道徳）指導案

1. 主題名 「生命の尊さ」 内容項目（D-1 9）

～生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること～

2. 資料名

「死んだらどうなるか」板倉聖宣『知恵と工夫の物語』仮説社1998年

3. 道徳教育とのかかわり

これまでの理科の学習で、生徒たちは「すべてのものは、原子からできていること」・「すべての生物は、細胞からできていること」を学んできた。そこから導かれる科学的な結論は「我々人間も原子からできており、死んだ後はまたバラバラの原子に戻る」ということである。しかし現実には、「お化け」や「霊の存在」を夢中で話している生徒達の姿も見受けられる。怪しげな「靈感商品」にだまされてしまうのは、このような心理の延長であろう。

本授業では科学史の専門家である元国立教育研究所員の板倉聖宣氏の「死んだらどうなるか」の文章を読んで、死後の世界について考えていく。科学的な視点を確かめるとともに、「心の世界」の視点も認めることで、価値観を強制しないようにしている。そして、「生命にはいつか終わりがあるが、生命はずっとつながっていること」をこの授業から感じ取ってもらいたい。

4. 本時の学習指導

（1）目標

生命の連続性を「科学の世界」・「心の世界」の両面からとらえる

(2) 展開

	学習内容・学習活動	予想される反応	指導上の留意点
導入	あなたは「〇〇霊」という言葉を聞いたことがありますか？	- 背後霊 ・ 自縛霊 - 浮遊霊 …	反応がなければ、さらっと
展開	【質問1】 あなたは霊魂の存在を信じるか 【質問2】 死んだらどうなると思うか 【質問3】 人体を構成する元素の割合は 資料を読み，話全体を考える 【質問4】 「お話」に納得できたか	- あるわけがない - 私は見た！ - 天国や地獄へ - 霊となる - 原子に戻る - 有機物＝炭素 - 水分が多いから - その通り納得！ - スッキリしない	【全質問に共通】 - 各質問ごとに，回答の選択肢を設けて，自分の意見が明確になるようにする。 - それぞれ自由な意見を出し合い，討論を行う。しかし個人の信条は大切にする。 - 少数派でも意見が言いやすい雰囲気を作る。
終末	感想を書いてもらい，何人かのものを紹介する。		静かな雰囲気の中で，授業を思い出しながら書く。

5. 評価

終了時に評価と感想を書いてもらい，「良い話だった」と評価する生徒が8割以上，かつ「良くなかった，つまらない」と評価する生徒が例外的にしかいないことを目指す。